

フロリダ大学に着いて、一週間ちょっと経ちました。正直、まだ全然アメリカに慣れていません。ここは日本と比べるともっと刺激的で人種的にも多様です。想像していたよりも、日本とはまるで違うなという印象です。そんな場所で、今は、新しい生活に慣れることと授業が始まり勉強しないといけないので大変です。このレポートでは、渡航までと着いてからどう過ごすことになるのかについて伝えられればと思います。参考になればうれしいです。私も先輩のものを読んで留学に向かうモチベーションにしていたので。

渡航までについて。

3月～5月

半年くらいさかのぼって、2月にIELTS (Toefl よりおすすめ。) で必要なスコアをとって、2024年の5月にノミネートされたとメールが届きました。そこから渡航の準備を始めました。具体的には、切れていたパスポートの更新や個人情報の登録、資金の証明などをフロリダ大学のサイトで行いました。それと、学生支援機構の奨学金を月10万円の貸与で借りる申請もしました。ちなみにその時(3月～5月)は、休学して留学費用を貯めるために長野県で住み込みバイトをしていました。スキーをして自然を満喫し、仲間と遊んで、私にとっては、これも留学に向けての一步として大事な思い出と経験になりました。

6月～7月

長野から松江に帰ってきて、さらに手続きを進めました。私のほかにもう一人選ばれた人がいるので、互いに協力しながら進めました。まずはフロリダ大学のアカウントを作りました。そのために必要なIDが送られてくるはずでしたが、届かなかったので、結局、向こうの大学まで電話をして教えてもらいました。フロリダ大学から島大に留学生が来ているので、電話の時などは助けてもらいました。寮に関しては、自分でUF housingのサイトをチェックして進めておかないと予約ができないので注意してください。VISAの取得に関しては、まずフロリダ大学がメールで送ってくる書類が必要でした。アメリカに入国したことがない人には、留学生ビザの取得に面接が課されます。Web上で、さらに必要な書類を準備してから予約サイトで希望の面接日程を選びます。場所は大阪の領事館でした。面接自体は数秒で終わりました。それからちょうど一週間後あたりに郵送でVISAが届きました。また、いくつかの感染症に対してのワクチンの接種も求められました。私は、地元の病院にワクチンの接種と抗体の証明の書類を用意してもらいました。最後にUFの指定する健康保険(PSI)に加入します。それから、授業の登録ができるようになります。

渡航

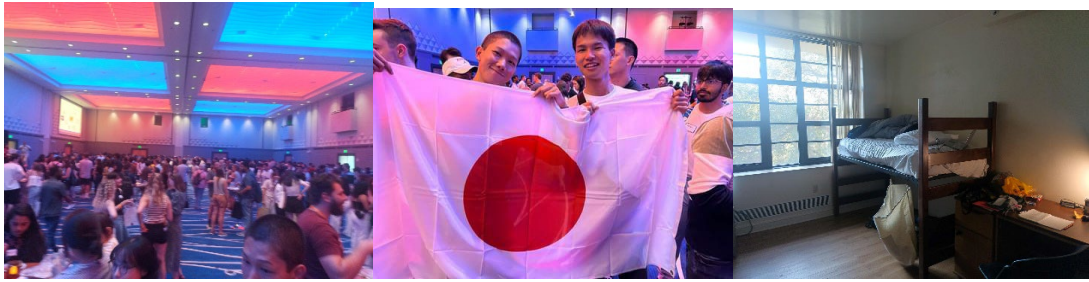
ずっと行きたかったはずなのにいよいよ留学が近づいてきても、あまり実感が湧きませんでした。大きな興奮も不安もなく、当たり前のように渡航の日を迎えました。フ

ライトは安さを第一で選んだので、約3日間も掛けて、成田→ホノルル→サンディエゴ→オーランドを飛ぶ計画(8/15~8/17)になりました。友達と二人だったのでまだ良かったのですが、異国の地で寝られる場所もなく、移動し続けるのはとてもタフなので、おすすめできません。荷物は必要最低減にしたので(後から後悔。)大きめのキャリーケース1つとリュック1つでした。まず、ホノルルに着くと、もうそこから日本とは違う雰囲気を感じました。その時はまだ元気があったので、バスでワイキキビーチに行き、サーフィンをしました。次はサンディエゴ(カリフォルニア)です。朝、着陸の時に飛行機からアメリカ大陸が見えたことが印象的でした。キャリーケースを預ける場所がなかったこともあり、友達は空港に残って、私はサンディエゴのダウンタウンを一人歩きました。ここも、まったく日本とは別世界でした。これぞまさにアメリカのような気がしました。はっきり言って歩くのは怖かったです。このあたりからビビってきました。夜まで待って、オーランド(フロリダ)への最終フライトです。ずっと神経が高ぶってまともに寝られていなかったのもうはっきり言って疲労困憊でした。飛行機が嫌でした。しかし、夜明け間に飛行機からみたフロリダの煌々とした街並みはきれいでした。到着すると島大の先生のアメリカ人の友人が迎えに来てくれることになっていたのですが、その人の車でまずは朝食を食べに行きました。その時は異国の地で心細かったので、ただ待ってくれる人がいることがうれしかったです。アメリカンなレストランで、フレンチトーストを食べました。見るもの聞くものすべてが日本とは違う中、一緒に朝食を食べた人の中に日本語を話せる人がいました。こういう発見があると不思議と安心します。それから高速バスに乗って大学の町(ゲインズビル)に行くのですが、バスの中はさすがに飛行機と違ってローカルな雰囲気でした。情けないですが、人種の違う人ばかりの中にいるのは落ち着かなかったです。そして、二時間後にゲインズビルにやっと着きました。治安のよい穏やかな街だと聞いていましたが、特別そういう印象はなかったです。やっていけるかどうか不安な気持ちを胸にキャリーケース片手に私は寮へチェックインをしに行きました。



新生活

入寮したのは午後5時あたりでした。自分の部屋を開けるとすでにルームメイトとその友達5人くらいがいました。本音を言うと軽く挨拶をして、もう早くシャワーを浴びて寝たかったですが、せっかく出迎えてくれたので、出ていかせるわけにはいきませんでした。ちなみに空港でけん玉をお土産として買っておいたのですが、みんなに渡すととても喜んで遊んでくれました。その日は私の生活用品を買いに行くことになり、ルームメイトの車に乗ってTARGETというスーパーに行きました。何が必要かどうか私もまだわからない中、シーツや枕、洗剤などみんなどんどん私のカートにものを入れていき、私も英語が聞き取れないし、NOとは言わなかったのが、合計で200ドル(3万円)くらいになりました。車で連れて行ってくれてありがたかったですが、結局使わない物もあり、自分の気持ちを伝えることの大切さ、そして英語力の必要性を痛感しました。夜は友達の寮に行き、おしゃべりしたり(まあ、何もしゃべれないけど。)簡単なホームパーティーみたいなものに行きました。おそらくみんなほとんどが初対面同士にもかかわらず、会話は全くやみません。僕だけが英語をうまく話せないのが早速、異文化の洗礼を受けました。19日には留学生に向けてのオリエンテーションがありました。軽く見積もって300人くらい留学生がいました。ほとんどがヨーロッパから来ているようです。アジア系は思っていたよりも少なく、日本人は10人いるかいないくらいだと思います。色んな国から来ているので、話しかけてみると面白いですし、日本から来ているというとみんな良い反応をしてくれます。ただ、同じ留学生でもみんな英語を不自由なく使えているので、なんというか自分だけおいて行かれたような気分です。次の日は、welcome partyがありました。とにかく規模が大きくて、無料のディナーバイキングがあったり、抽選大会では景品に自転車がありました。大学の中にボウリングセンターもありました。新学期が始まる週はWelcome weekと言って、大学が主催のものからスポーツのクラブやクリスチャンクラブ、文化系のクラブまでいろいろな団体がこういったイベントを開催していてInstagramなどからチェックできます。大学をぶらぶら歩けば、どこかで何かやっていて、ふらっと参加できるものも多いと思います。みんなフレンドリーなので話しかけてみるのが大切だと思います。食事については、ミールプランというものがありますが、一学期で30万円しますし特別、おいしいわけでもないで私は入りませんでした。ただ、自炊しようにも寮には冷蔵庫がなく、調理器具も置いていません。教養のキッチンには電子レンジ、コンロ、オーブンがあるだけです。それでも自炊しないとお金が心配なので、冷蔵庫は買いましたが、いろいろ揃えるのも大変で今は困っています。ちなみに大学内のファストフードはだいたいどこも一食10ドル(1500円)くらいします。



留学準備からさかのぼって書いたら、長くなりすぎてしまったので、今回はこのくらいにしようと思います。次回は、授業やクラブ活動、休日の過ごし方などを書ければと思います。